繪本忠臣藏

六

中村進午文庫
文庫5
702
6

昭和三十年一月十日 寄贈 中村本天氏
昭和三十二年十一月二十七日 法学部研究室より移管

HBS IV 513 文
所属 HK 部門 中村徳文庫 番号 9690 小番 6
文庫5 702 6

各別謹上博士元会殿

繪本忠臣藏六之巻

目録

○大星玄圃至山科
○伯州の農民大星が郷を去と歎く圖
大星山科の家宅を退る圖
○都端香院築墳墓 并圖
○大聖寺子諭金を受

原近藤倉下向
大星銀藤倉
早野勘平出害
師直間者登京師　高師直大星を招く図
大星偽祇遊里　大星花街に柏木を戯る図
大星戯天井樂書

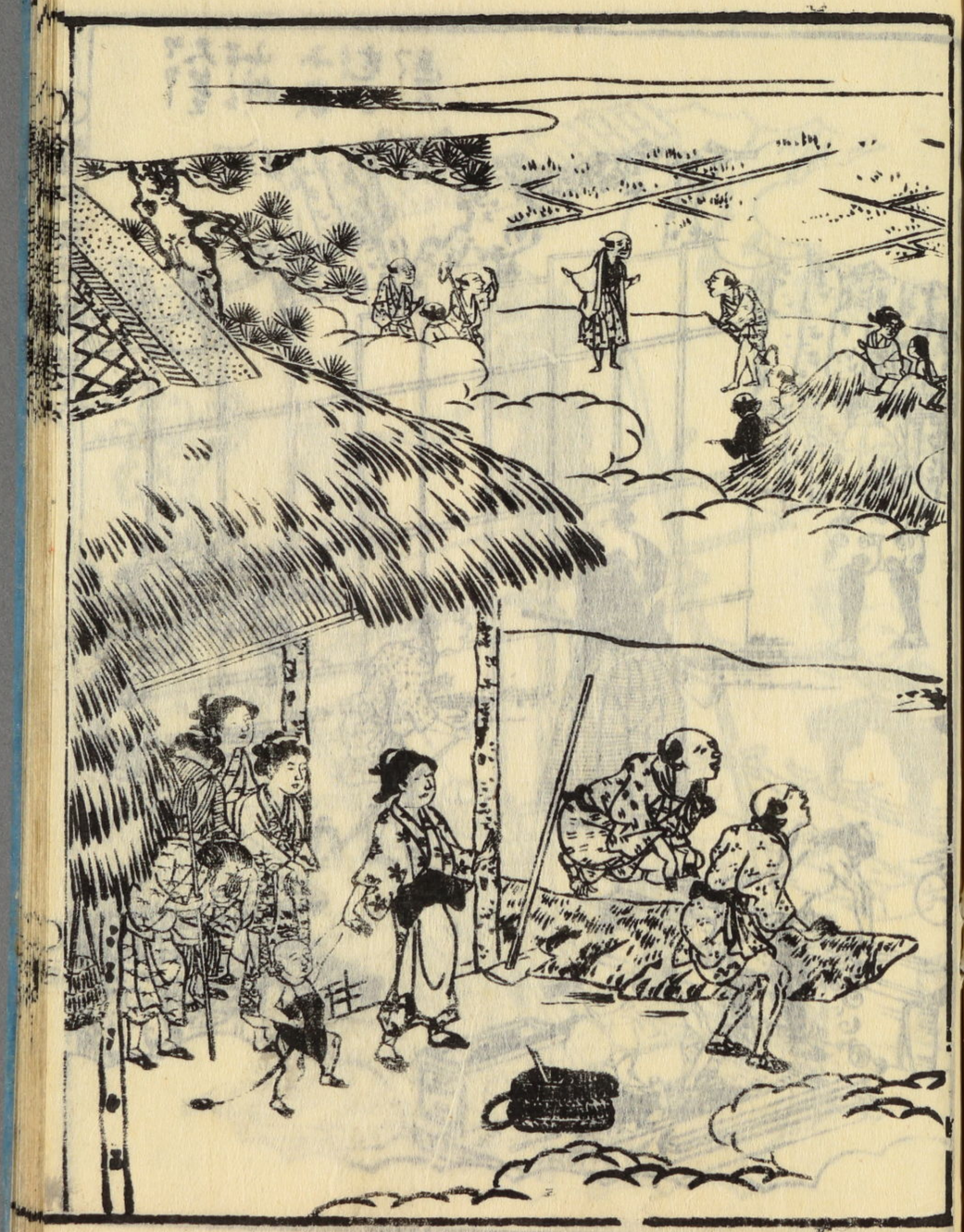
繪本忠臣藏卷之六

大星玄國至山科

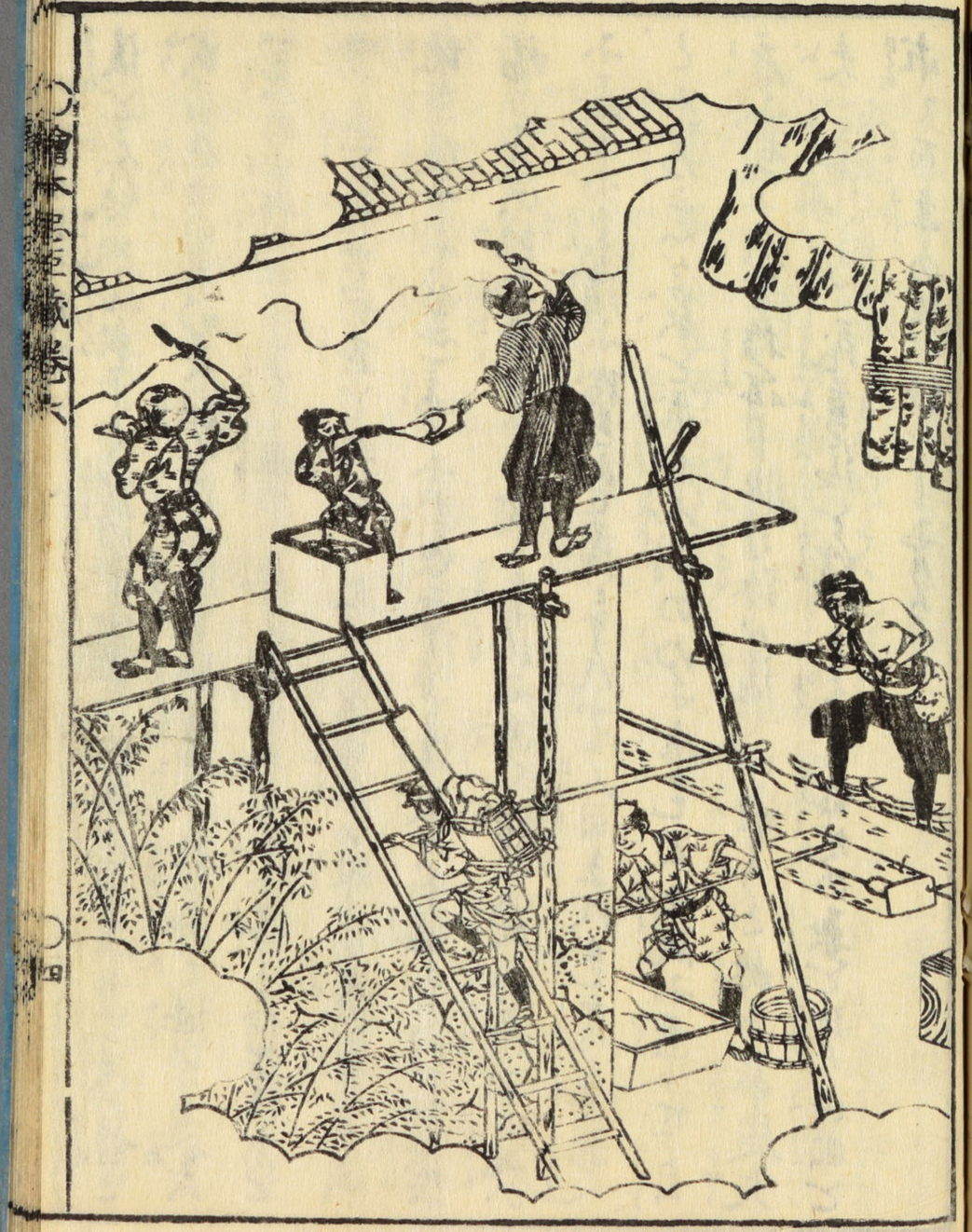
海を渡る若い船よりの遠さを行あの駕に乘國家と納る若い忠賢の
臣下るこゝやこゝに大星中長の生涯を屠亜義勇中して改道にしく
憐愍の志原々に村里小得分と云へ列して塩冦の運送小氏と姫
々に村氏其他に汽伏一人の指揮小依て農民の道と農に孫に聖
代の世に至一と成び居しが武士一同小離散し
々に大星も領地の要用と呆一赤尾の寺院に田地或に金子と以て
亡主の祇堂と寄附一位則ち地と立て小乃人で村氏たひ小刀法
家一出く道遊小出て名義と偽む事の親に離て思ひ所
々に小京都も京に神祇部一人小列と若扁形小捧さて遠小

早稲田大学圖書館藏書

伯州の農民
大星の
囲とさとること
能く歌く



大星
石堂
山科
小家
宅と
なる



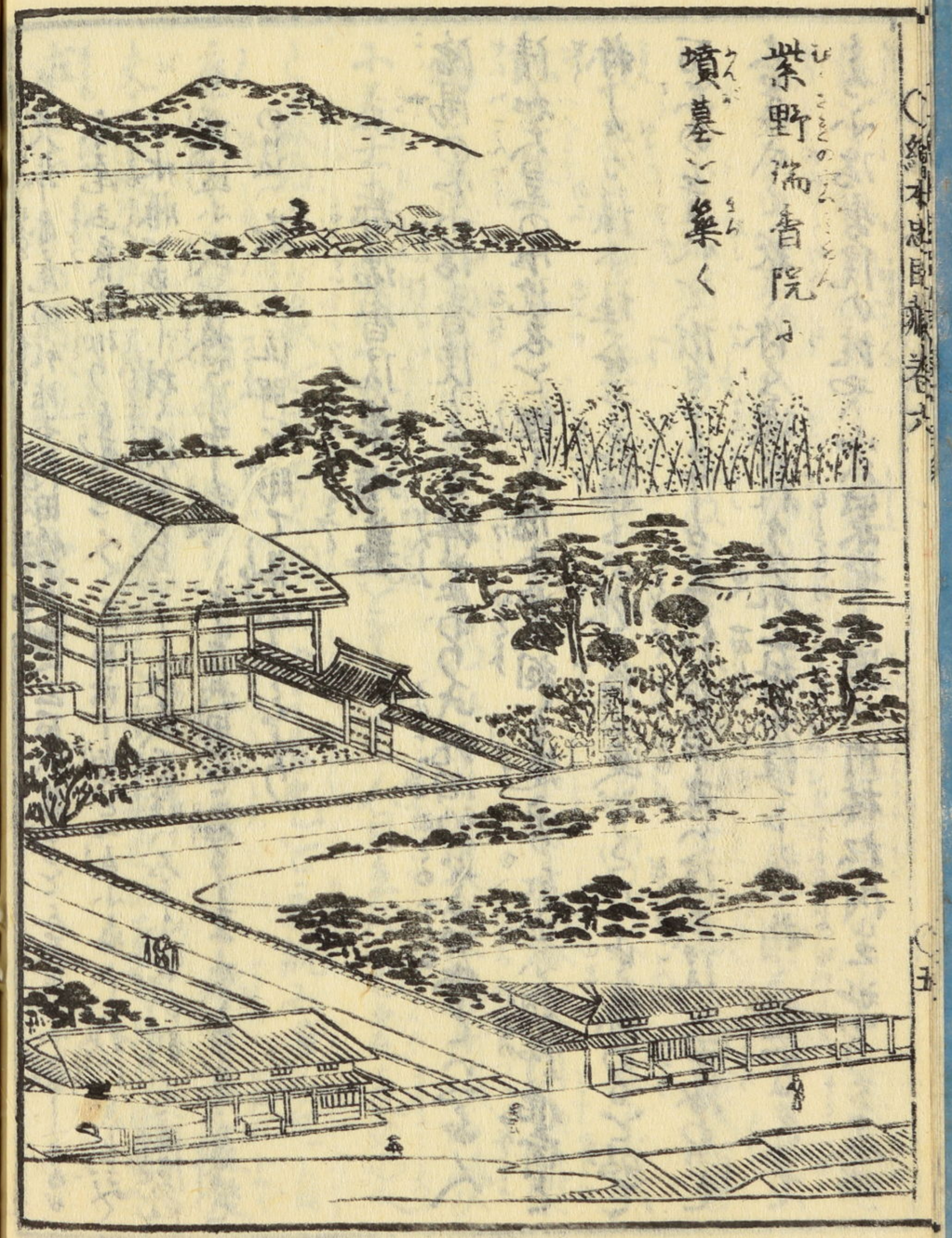
後ど人長く孤淋寂しく霞の中小舟に乗へ滄海浮りのごとして夜の蜑と
成て在世の来りし人新小沼の須と解月中小舟と叩て徳ひしも今八
一家の小舟小舟と称して孤淋小沼の家小宿一夜の宿を乞ひ宅小宿一夜の宿を乞ひ
呼て密の報恩の義と指揮し夫を田原の四り小丸び長しく此
地を焼中て来と言る小手後無しと迎家ゞ石縁小丸て此樂
揚ゝる此地如舞中て去ても来ても此小丸此稲荷塚の祭ひ
小義士小系消小弥生魯義と言人十も人目を見ぬ色を見の和
と表を見ゞ家と求め人間のみ小屋宅と立流小差上世自
屋小おてこゝと指揮し脇刀弥ゞ後くのみなりと称ゞ家建夫
夫小逆鬼と呼色義を捨して求て石幸の狩へ社なり去る

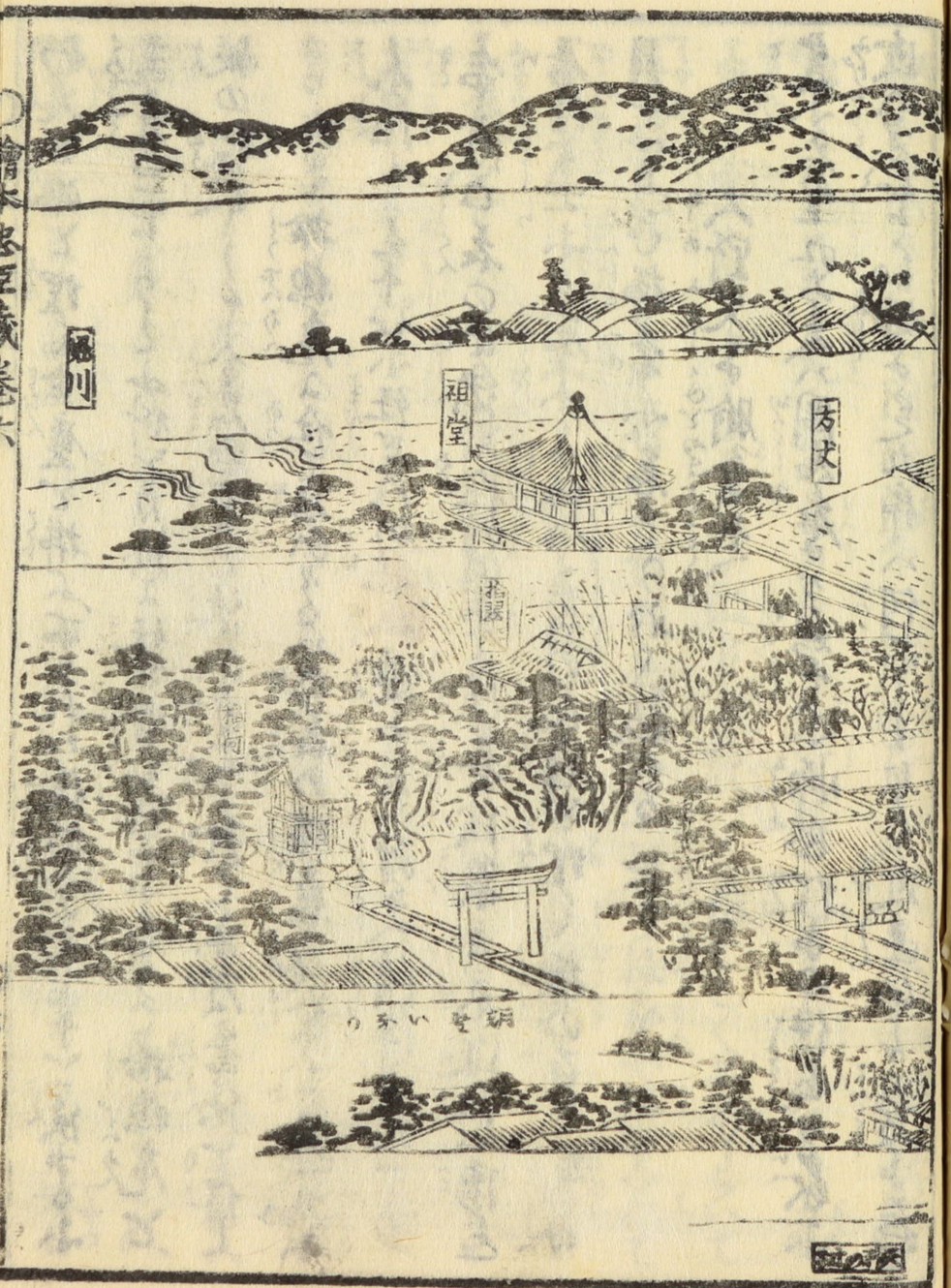
先年赤尾の紙地小新田郷人数三百六拾人と三百歩小垂一るゞ
赤尾孟賓の砌り森のごく三百六十歩と一反小垂し新田郷人数
小水帳と垂し新田と称し人民百姓小たゞ小悦び別して法院の
運送小民と後せし年未世まで真鳳と表ゝ垂ゝ人民百姓
の後い家小位牌を開て弔ゞ

都瑞香院築墳墓

洛陽の小小瑞香院と人る禅宗小り此地旧紀聖岩称しい家人
清和天皇の小絶後と埋く後小業祖と建ゝ此世小朝野稲荷と
称ゞる後小垂石ゞ先祖ゝ此地を後ゞ垂ゝ縁ゝると祭て
石人の寺紙と附せ垂ゝ寺ゞ寺ゞ後江自産小猛成院の石縁ゝ
大星氏し新く除く通ゝれ名ゝれ小科小後てしゝ折く此小垂ゝ
ゝる小瑞香院の地や少小家産小垂ゝ竹林松樹生姿小り墓

紫野瑞香院ゟ
墳墓ニ葬ル



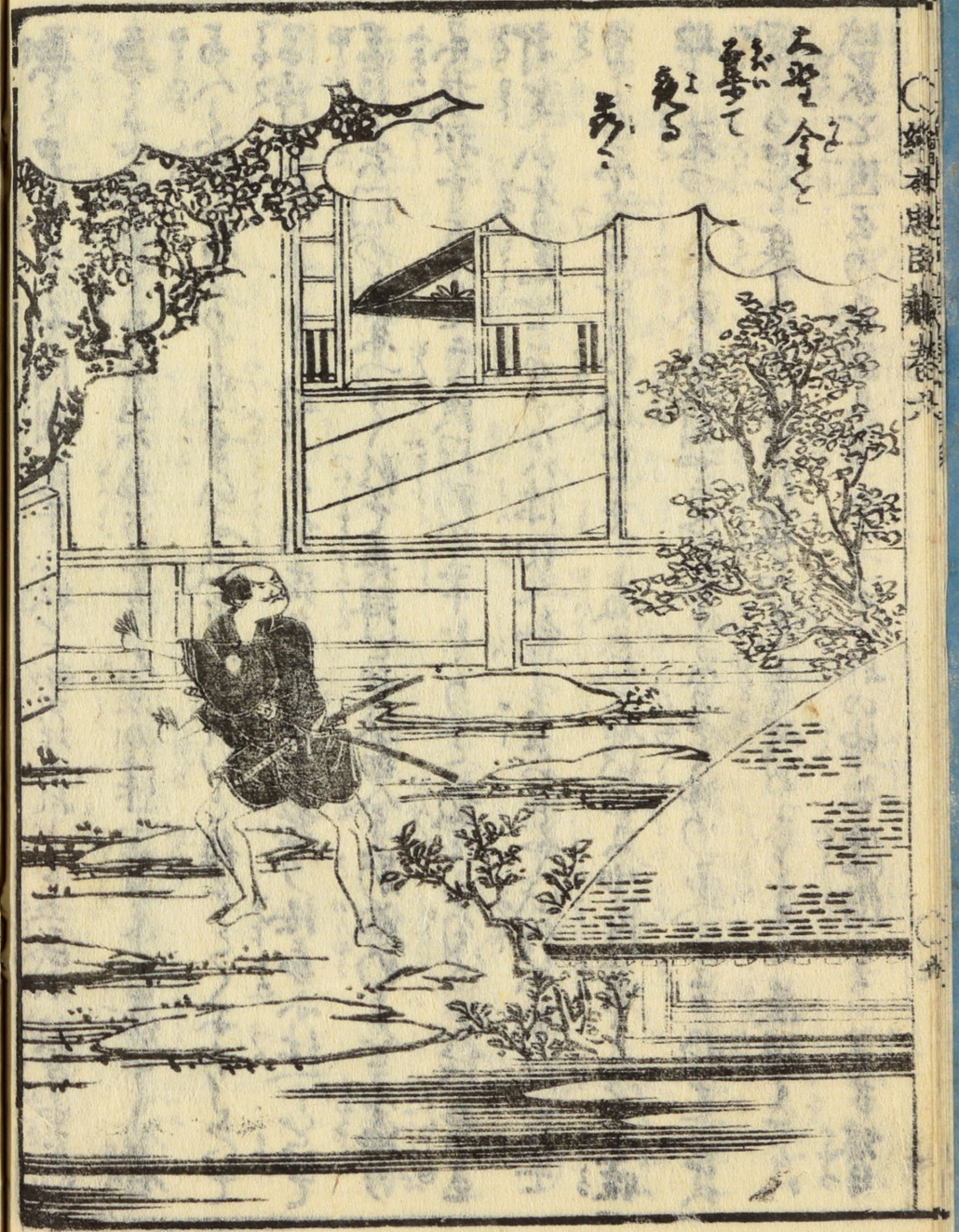


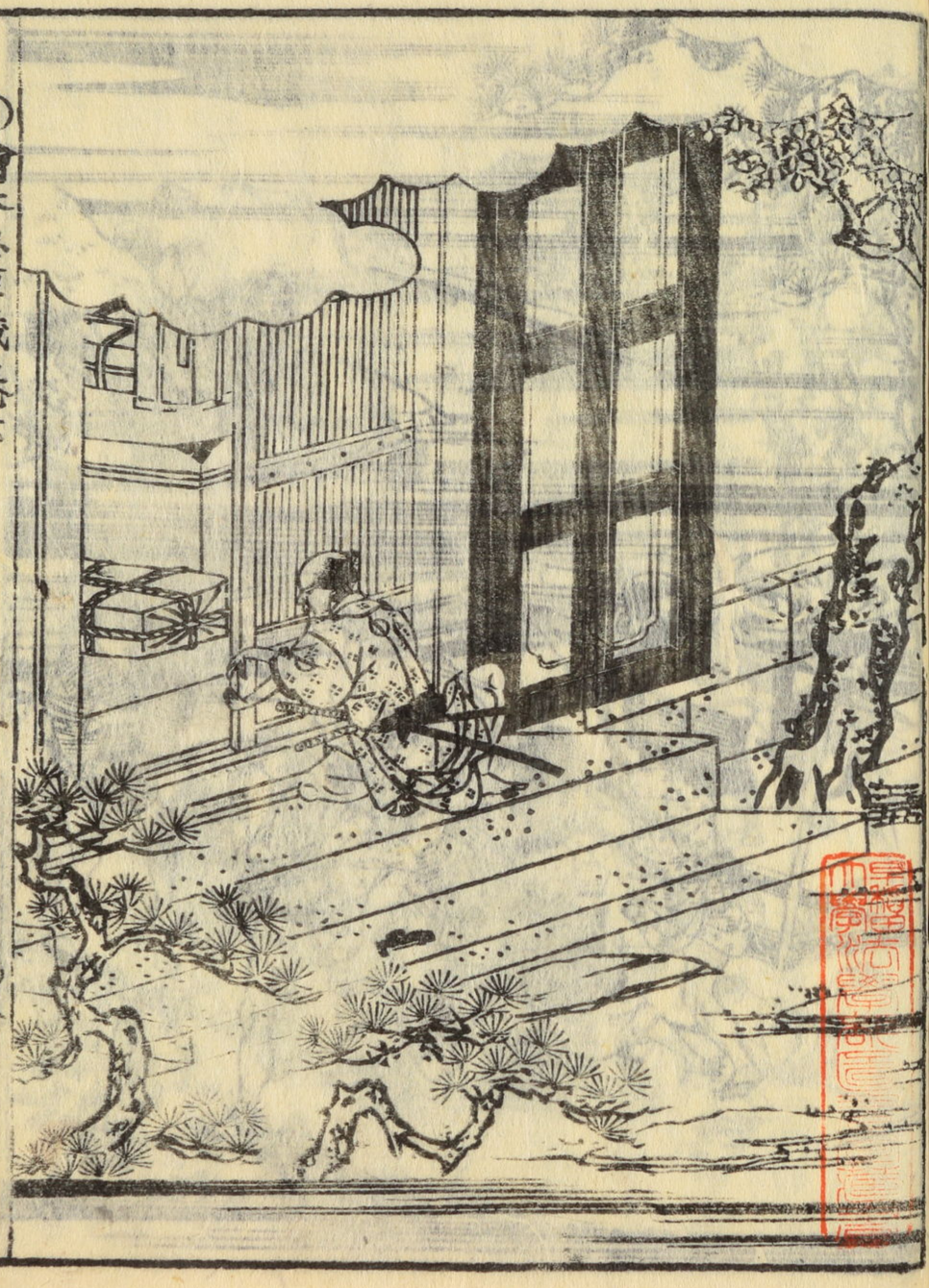
の人の頃と埋く世塵と掃へ而われば後世の器事と使ずふ
意義の而ちりと山科と力添ふ任せ皆く山而ふ来りて拾遺尾と
紙の位而ふして今ふの業と清ひ方ふ旅て毎度客使と使し
る大見拾遺尾ふ在て見ひるる亡君の墳墓藻倉ふ有ふ光ふ
偏ふ年ふ任せ代ふ池遥中ふて清ひ人清庫の地ふり
事ふ亡君の世絶ふ在ふ山而ふ墓氏集ふ京近在ふ隠と
成る義士ふ屋ふ人伯人ふ君の衣冠と埋く標の石と建ふ
月ふ官ふ掃常ふ怠ふる事ふ好く勤ふる

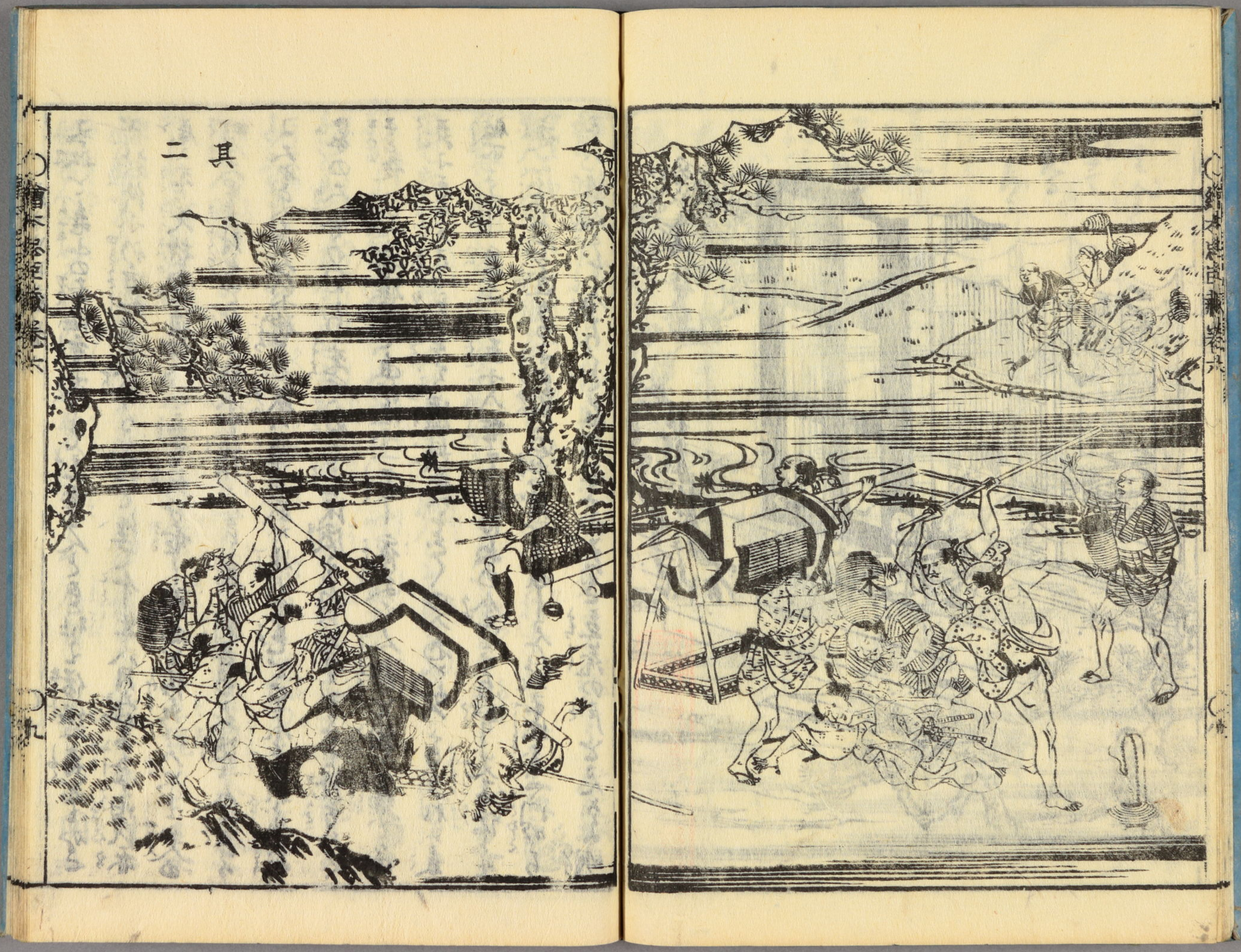
大野定ふ胸金ふ

家ふ大量ふ家ふ園志摩ふ思ふ師匠ふ仕義ふ家ふ
迎入ふ嫁ふ定ふ姉ふ定ふ九郎ふ何而ふ近ふ近ふ

敵ふ出ひるふ門國繁年（私と勢ふ名ふ土民ふ彼ふ義ふ
思ふて拾遺と見ふれば毎方ふ大江の津ふ着年ふ仕ひ者
面人ふ成て居ふ事ふ彼方ふ易ふと雖ふふふ
国帰ふ定ふ九郎ふ怒ふ家ふ往ふ
青月長門ふ来ふ再拝ふ今期ふ
永接拶ふ三代門ふの事ふ敬ふ申ふ
打笑ふ今義ふ思ふ涙切ふ知ふ山行ふ尾ふ
方ふ出ふ思ふ易彼ふ事ふ農業ふ山而ふ出産ふ
物ふ来ふ憂目ふ人ふ
風ふ出ふ塞ふ人ふ色青雲ふ
岩ふ近ふ西國ふ人ふ私ふ中ふ


大星金吾と
ふかい事して
見る
ふり




其二

又私と長山の幸徳寺にて立番人とをれども侍一者とも如こ
ゞ出ず絶ふ行方知れと成るゞ程と経て今年八月大聖天子泊られ赤
尾之本り光明寺迄昼ふ至て祈け参し荷物と預れと人ひとも更ゆ
町人大聖天封中と付し始末を信り出ゞ剣者わゞ侍ふ人云る
よ大聖天子ふ大ひふ神ると成い始り成い様して色とふ人とすれども
家の大勢のつまり来て教てこ伝侍ゞれば大聖天子も没方なく
ふと夜い陰ふ様して無江昼ふ一者一夜ふて人神と仰い霧ふこの
乗ふ乗りこと引ゞ乗る道具成ゞ出ゞ人わい知らなれ義
彼ふ出ゞ一卒ふ刀無ふ入乗ふ三百文の金ふ出ゞ父子侍ふ
夜ふ行きて迫る家門の老母と子一人伝ゞ不出ず門ふ立
ふい堂人ふて入りと最内金ふ出ゞ五尭の戸と入る明

堂ふ刀無ふして大聖天子と引れども出ゞ出ず相も
堂人い大聖天子ふ隣家の老と信ふ程ふ大聖天子ふ人侍
ふ寄ふ乗て乗ゞ出ゞふ近行と大勢見ふ出ず出ずふ事を
ゞて出ゞと引揚れゞ大聖天子ふ城人ふて見ふ出ゞと侍如ふ
引ふして大勢立無り捜ふして叩ふ教せふ罵り程ふ天子
色と先ふ豆金ふと成ふ命と助け侍れふ大ふ金ふ出ゞ
高ふ高ふ金ふと成ふ一日須臾ふ思ひふゞ出ゞわふたふん
貧人ふ染天子と侍り付て赤尾ふ海り八月十日白色ふ赤縁ふ
かして天子と侍り町中と速ふ乗り縁と出ゞたふ五縄ふふ
出ゞ殺ふ人ふ成ふ縁ふ色 貧侍り大聖執事の職ふ在ふ時い
彼ふ人の如ふ家門の内入と生ふて眉目ふ馬生の間ふ

作法一其威と德とを兼ねしかば道を重ひ仁義を厚くし
乃ち面貌せしと老衛を鞭とする人倒布なる人面貌なり

原辺藤蔵倉ヶ下の

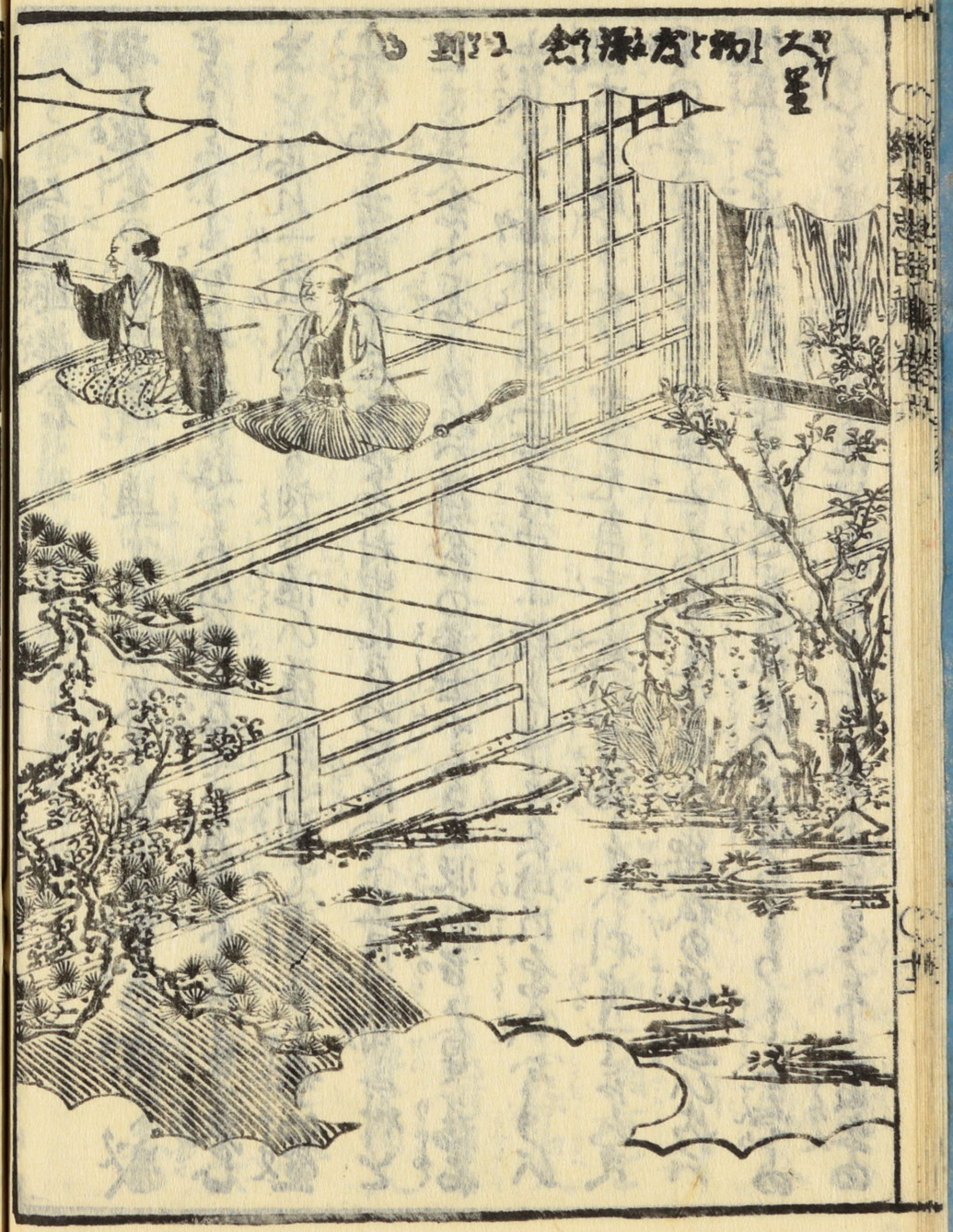
左衛門大夫中臣助成は郡司武内の末裔なり屋敷門士の
志と斗り強勇の忠臣と斗り義士忠臣の聞えあり人物
堂々事とし知て忠なり一旦聞の成功と云て後往
俄と後一後うを切て敵人すあ終うと雑藤倉ヶ下の血の義
当義とげて一筋の血と成人のとゆきり雑藤倉ヶ下の一
下の逆と行俗再ひ上洛て事と為人と係り名れば一生を
清むべしして九月下旬京空後塩田海と迎村中助助と迎
る三人の忠日数掠りて藤倉と着せしべ藤倉の三士大伝ヶ

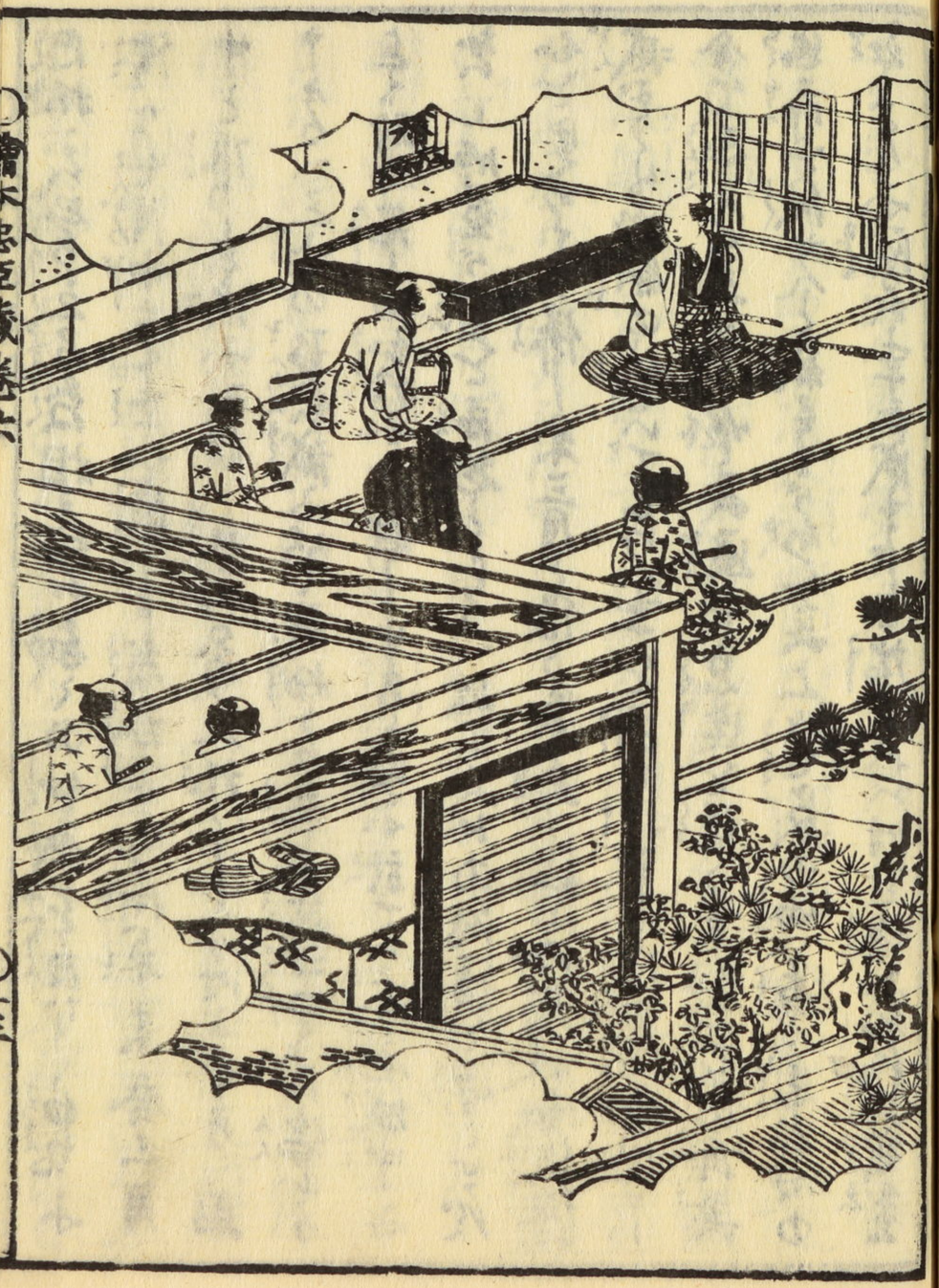
吸び京ヶ藤岩ヶ来りて当ひ井安藤ヶ名ヶ
郷くけ助成の指揮と長束藤ヶ故の動静と伺ふ
長ヶ角一日も早く大星氏と塩田村中の三人ひヶ三士ヶ義勇の志氏威じる時京空
京塩田村中の三人ひヶ三士ヶ義勇の志氏威じる時京空
ヶ大星氏と初め郷くせヶ来りて大事と急るべ
ヶり終りて雑忠士の忠中事と大星ヶ長食ヶ計まる強こ
又人其上長角忠事ヶ藤りて寄ヶ強けりの中長助所
助ヶ郷くもたこて忠人ヶ三人ヶ兵衛井ヶ名ヶ人ヶ方の
忠中人藤の狂と陽て敬と目数ヶ又人ヶ事ヶ中ヶ間ヶ人ヶ
助ヶ郷くヶ人ヶ動もヶ人ヶ敬と目数ヶ又人ヶ事ヶ中ヶ間ヶ人ヶ
事三枚のごヶ義ヶ藤ヶ義ヶ術と強ヶ義ヶ

仇逆の中ふ某ゆと定め一郎ゆ子ゆく仲直ゆ首と亡君の位牌ふ
備へ[illegible]ん[illegible]孫倉の有様と涙ゆ堪ず義を激し
そ侍士路ゆ[illegible]ゆ義勇ゆ[illegible]ゆ何義ゆ[illegible]ふ同じ
日夜會稽と信じ各ゆ後上方の三士と家ふ招き酒有と
設て賓客鶴ゆ園八幡宮ふ参詣し神おふ祈て[illegible]ふ[illegible]
と祈りゆ[illegible]と代拝ゆ[illegible]と[illegible]と約しゆる[illegible]
保ゆ[illegible]大警久ゆの面士も大ゆ指揮と[illegible]故の勅解と[illegible]
お孫倉芳田仲ゆ[illegible]ゆ宅ふ着し[illegible]侍士ゆ[illegible]ふ勇と色[illegible]
一同ふ會釈と信じゆる時ふ芳田[illegible]并進ふお名集後一変の上へ
[illegible]ふ[illegible]ゆ[illegible]と[illegible]て[illegible]と[illegible]ふ[illegible]の
使と設て上料ふ送り[illegible]ゆ東ゆ[illegible]ゆ[illegible]

大星雄孫倉

[illegible]孫倉の急使上料ふ通じゆれば大星侍士の忠義と深く感
ぜるゆ[illegible]ゆ急[illegible]と[illegible]ゆ[illegible]ふ[illegible]ゆ[illegible]
事と思れ一度侍士ふゆ[illegible]ふ[illegible]孫倉ふ到て賓人と[illegible]
上村伝ゆ[illegible]園寺三郎左ゆ村中信左ゆ[illegible]て十一月下旬ふ上料と
云て孫倉ふ名[illegible]ゆ孫倉の義士ふ[illegible]ふ[illegible]大星[illegible]
ふ集りて[illegible]井ふの三士寺中ふ対して[illegible]ふ[illegible]
侍士ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
何[illegible]ふ迷ふ事と[illegible]て亡君の位牌と体ふ[illegible]
人[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]





内相ふ共ゆるさず相ふくんで敵をなくし申訳ふ
ぶりを月中も幸と楽しまるる何年末春三月
中と限り急速ふ攻落し給ふ時は上様ふ
中くるハ三士の聚会減ふ成て神妙ふ思召の上ハ偏ふ
上を祈く給ふの外ふ有ざ一中も助ふ給てハ赤三尾城中ふ
出し降参首と任あとるとを絶て人口の流言を尊こせば
心と定まり保一来三月に限る幸来ぶ給ハ後金保証ハ
減ぶ成ふ出羽の代ふ出でもち人幸と関て接ふ月士の城中ふ
金て志と三ざ一惟長遠と保う幸ハ三家の再興
出羽と紙せんと歌るるふ真上様家の御ハ幸ぶ急ぶ時の
ぶ成ふ同ふ幸の成まぶき給ふ時と待ふ給ハ我重

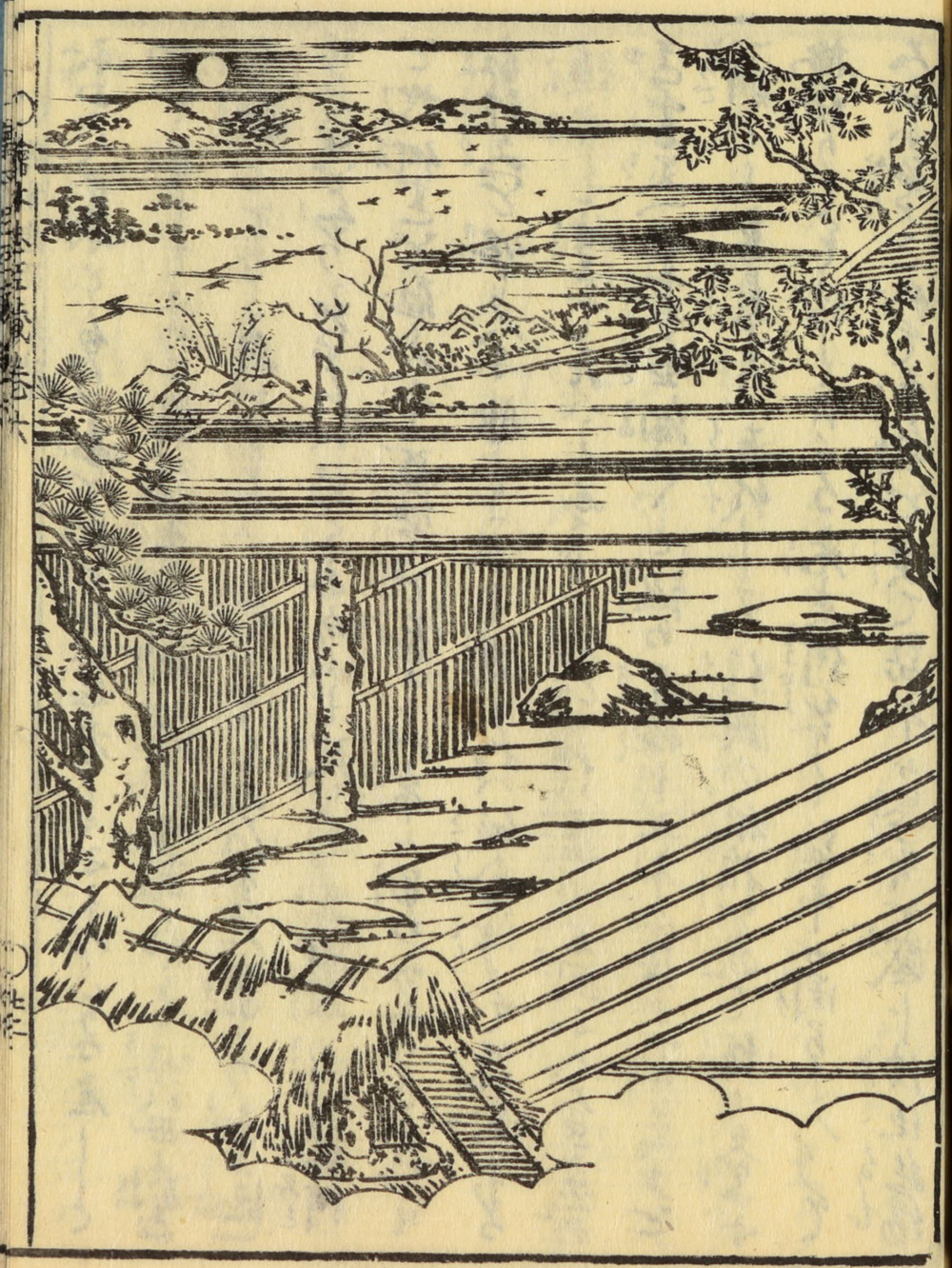
中も堅ふの他ハ幸と思ふ通ふ成ふ三士を立て
ふ成ふ忠臣命義減ふ成て猛有ふ長
三月と限ふの長間なきふ成ふ亡君の一回忌も経
ぶ出羽の安否も知ハ一回忌と待ハ上と義如世ざる
義も有り紙ハ三月中と限り間老と過て帰国と何ハ遠
の成ると清ざ一何の月日ふ定ふる時ふ的を
志一清ざ一く押て見と討海ハ大星も打義ハ三士ら
ふ成て一応理有りと云ふ同ぶ名れば産中の業一月ふ育紙
限りて来ふ討ふざ一と約ふ成ハ三士ふ成ぶ来春ハ上洛
ふて義幸ふ下和と云ざ一ハ播村中大勢の帰と云
で三士ふ向ハ三月中の幸海堂せり中ハ三士ふ成ハ者三月中と

ちゝ兄弟二人を限りて胃小助なりて終身を慰しむべしと云
傳聞村中大騒ぎ作蔵の男士夜ぶ事限りなく時小兵衛ゆうゝ
は在て人数の間者も知人的名宿定の上八幡宮小田原
新も押付をる色べしと名色ときゝ收びの色と動見くふ
海傷うゞ泊りなく

早野勘平生害

実小塩谷の家臣早野勘平主従播州早野村の口土三左ゑもん
六年三月十四日主君園部の御一番の役進ゝて塩谷ゝ
主従ときけゞ腹をりなる時勘平ハ弥源の半左衛門ゝ
ゝりと駆通る道ゝて葬典ゝ行逢主従色ゝ小家親族
ゝ色ゝ馬ゝより出ゝ家侍源小くれて主従が

毋の身すゝ也事と名ゝ兄弟流石の勘平十方ゝ嗚呼天感
命なるゝ分主君の安義ゝ色と失ゝ其身と者ゝ小家
ゝ動る在て毋又死して長森ゝ年ゝ悲歎の涙くと
なるが事急ゝ兄弟ゝ主従ゝ小色ゝ色ゝ赤尾ゝ
腹ゝりて腹切の約と成ゝ岡城の後ハ毋の忌中なれ兄弟村
ゝ帰て毋の中陰と身ゝ洗ゝ浅ゝ約束ゝ藤倉ゝ
毋ゝ色ゝる事小ゝて勘平ゝ兄ゝ松尾ゝ来ゝ
読ゝ近ゝ藤倉ゝ再ゝ仕官と歩ゝ間ゝ勝ゝ
名ゝ兄弟ゝ三ゝ色と成て汝が頭ひる事ゝ家ゝ老年て
妻ゝ別ゝ細ゝ別ゝ折節なれ兄弟ゝ色の望ゝと成て揚りの
親ゝ人在ゝ色ゝ田と成て世継と成ゝ二名小仕ゝ忠



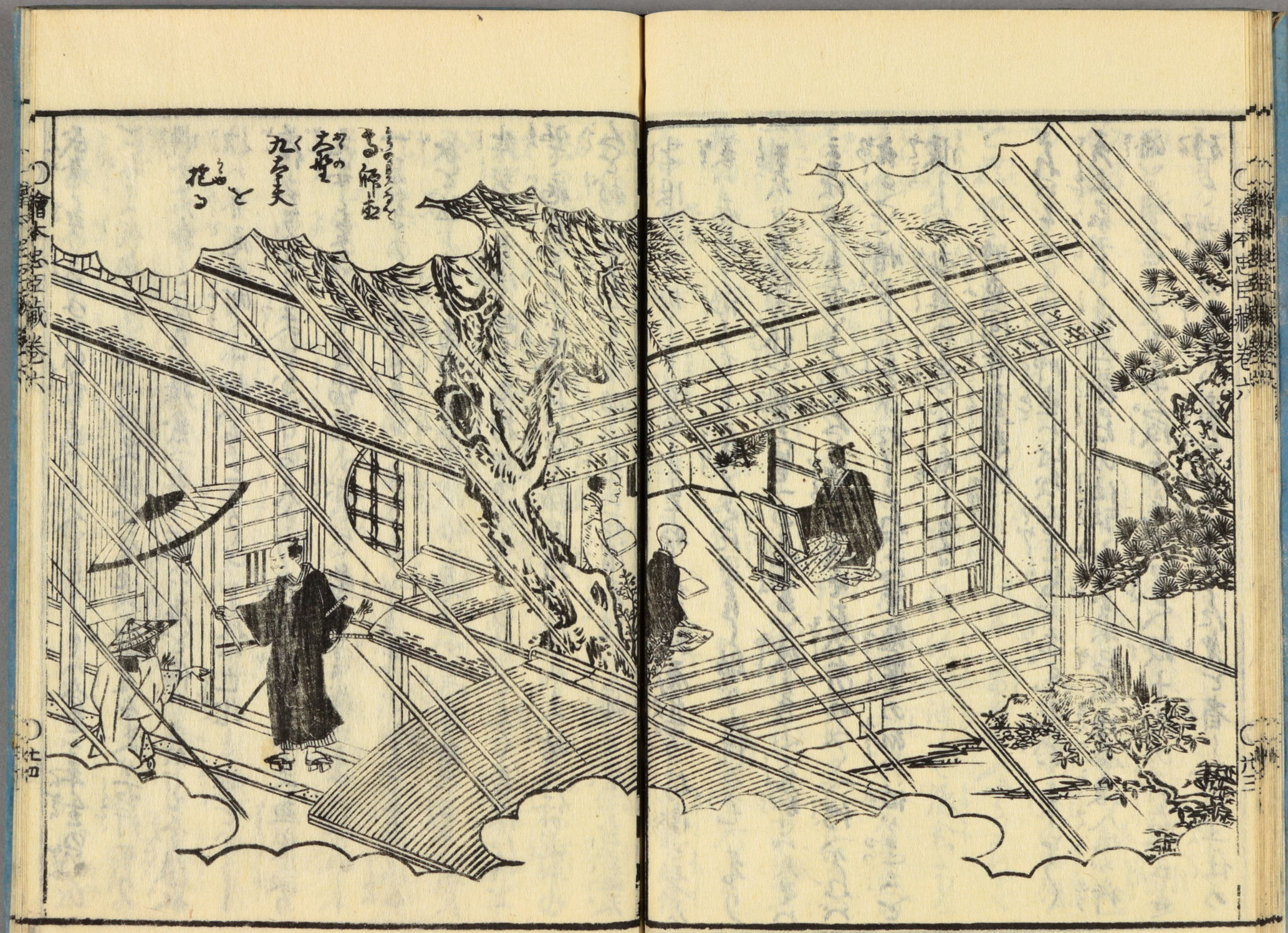
早く
敵を
生け
害

不義に寄とぞ思ひ義と助けかば忠孝しまつくこゝろ尾しと
理と為して歩みれば勤本分ふ思ふ張文の宮へぐく山田二郎
今鶴とやり面ばさぞやり惟りなく思ひかゝん家より家ふ思
ひつゝのとかりしかぐれば訪てゆめかも陽り文一の孝義一の忠何
と拵何まと取ん今張弓と出ゝとゝ年ゝ苗ゆめふゝとゝれども
紅林ふと訪て人ふ世ゝとゝじく置ゝれば俗合世て藻倉ふゆる
道有ゝと世さで死ん去ゝじく思ひれば富ふ玉関ふ入ん室氏の
ゝ書文一の書亜細ぐゝと思め元徳十五年正月十皆真方と
一朝くゝ高貞ゝり赤紙ゝる住國の根指を訪て級十久字ふ
掛切りてゝ伏ゝゝゝ名老夫何ゆく勤年ゝ国ゝふ入りて
大和ふ勢ゝさ訪て半亜と後て勤年ゝ忠義と感じ清泛為傷

半限り国ゝ相ゝゝ貧ゝゝと半野ゝゝ思ゝ属集ゝ情傷ゝゝ
長ゝ病ゝゝ訪ゝゝて葬ゝゝ為ゝ船ゝ料ゝ元一年ゝ
ゝ義ゝ自殺ゝ紙ゝ若ゝ室一ゝ書ゝ成ゝ元ゝ年ゝ大ゝ室ゝ
亜ゝ書亜ゝ人て大ゝ勢ゝ国ゝ世義士ゝ名ゝ代ゝ
紙ゝと情ゝゝゝゝゝ訪ゝ大ゝ室ゝ紙ゝ代ゝ世ゝと
懐ゝて勤真ゝ志ゝゝ為ゝ

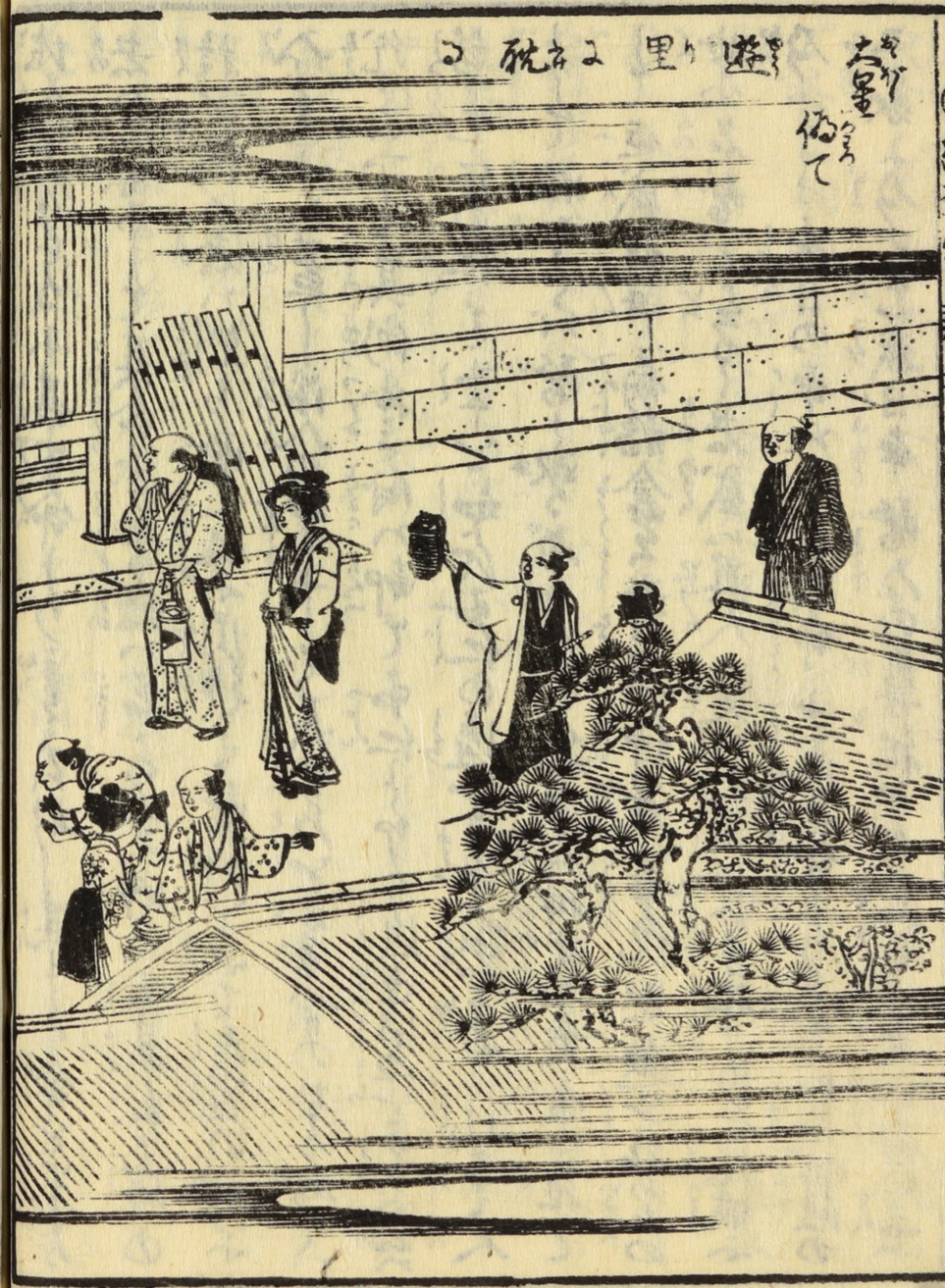
師亜間者登京師

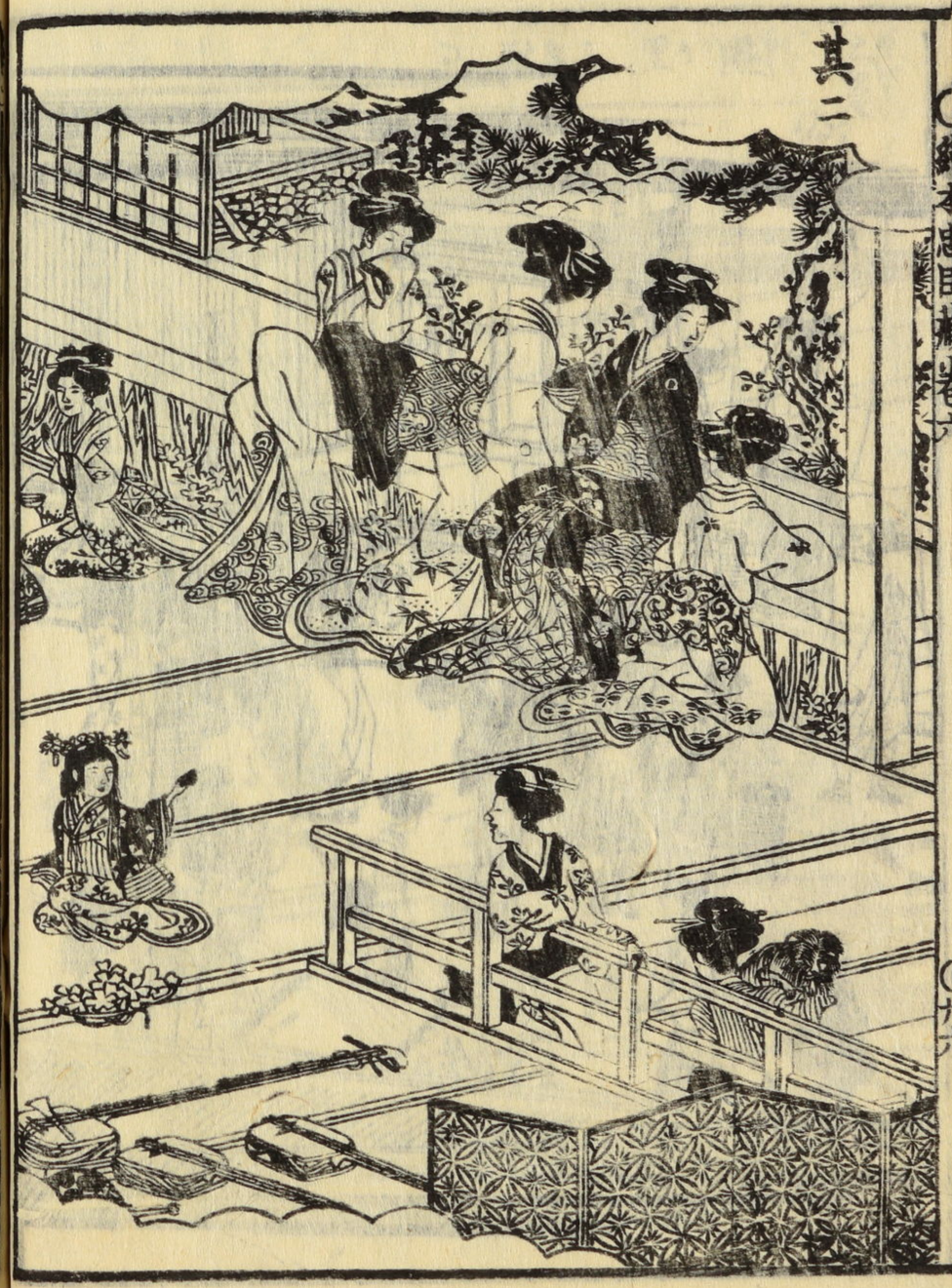
ゝれゝそのゝ記ゝ師亜ゝ世ゝ義ゝ為ゝ赤尾ゝ城ゝ半ゝく
考上家ゝ本ゝ亜ゝ離ゝ義ゝ仕訪ゝ忠義ゝ思ゝ浪谷浪人ゝ行
涙ゝ訪ゝゝて京ゝ後ゝ赤尾ゝ弓ゝ数十人ゝ間ゝ世
訪ゝて山科ゝ弓ゝ人ゝ花諸ゝ身ゝ者ゝ彼ゝ立仕ゝ


雪降り来る
かの方
九郎夫
と
化る

武屋こそ易のくとさうしてハ太皇ゟ平生の淺ハ
と書こ何ハ名ゟ家ゟ孫又勝ひ屋ハ大聖九方皐ゟ雷行り
降定九命と法ゟ孫食ハ契り僅の家と傳りれども今後家
狩ハ赤尾の所人ゟ押へらとるなれば亡絶し魂とおく
荷ゟ名人と子孫をゟ名ゟ子孫ハ丈夫髮ゟ
元安と名ゟして目倍醫と称して醫学傳稼の家札とおし
一面学の法生を集めしゟ傳席とかまへて常に法名
家と称して云南対醫者の風俗とゟ其昔醫と学ぶ者ハ
半ゟり其術拙くして務除ゟらひしゟ兵使と
張て病家とたゞ名利のゟ動其技と外ゟ支醫ハ仁の術ゟ
人を救ゟの義ゟり故ゟ易ゟ而謂天地の大德と生ゟ其盡天

地人と人をとるゟ其生命より重ゟ形ゟ其ゟ命と生ゟる
者ハ父母ゟして其命と司ゟる者ハ君ゟ又師と云其名ゟ師の
技を授ゟ者ハ別ち醫ゟ故ゟ医師と云て天官の部ゟ
入ゟ蓋ゟ法人の業中ゟて其生ゟと学ぶ人のゟる所ゟ
然ゟ以ゟ其術拙ゟ付ハ部て和仁ゟ行ゟる道世ゟと学ぶ者ハ
皆是仁の仁ゟ本と知ゟ其ゟの道と学ぶ者ゟ孔子門人
ゟて拙ゟ学ぶ醫ゟ教ゟ学ぶ者ゟ上神農黄帝と祖と
ゟて遠成伊尹扁鵲倉公ゟ者ハ孫仲景華佗思邈と称ゟ其の
世ゟ名醫と云ゟ者ゟ盛ゟ異人ゟ又ハ王ゟの宰相ゟり出て法候ゟ
乃ゟ学ゟ家日の本ハ大己貴命少彦名命ゟりして和気丹波の
二家ゟ乃ゟ是我日本醫道の鼻祖ゟり和気ハ垂仁帝の末ゟ


大星由良之介

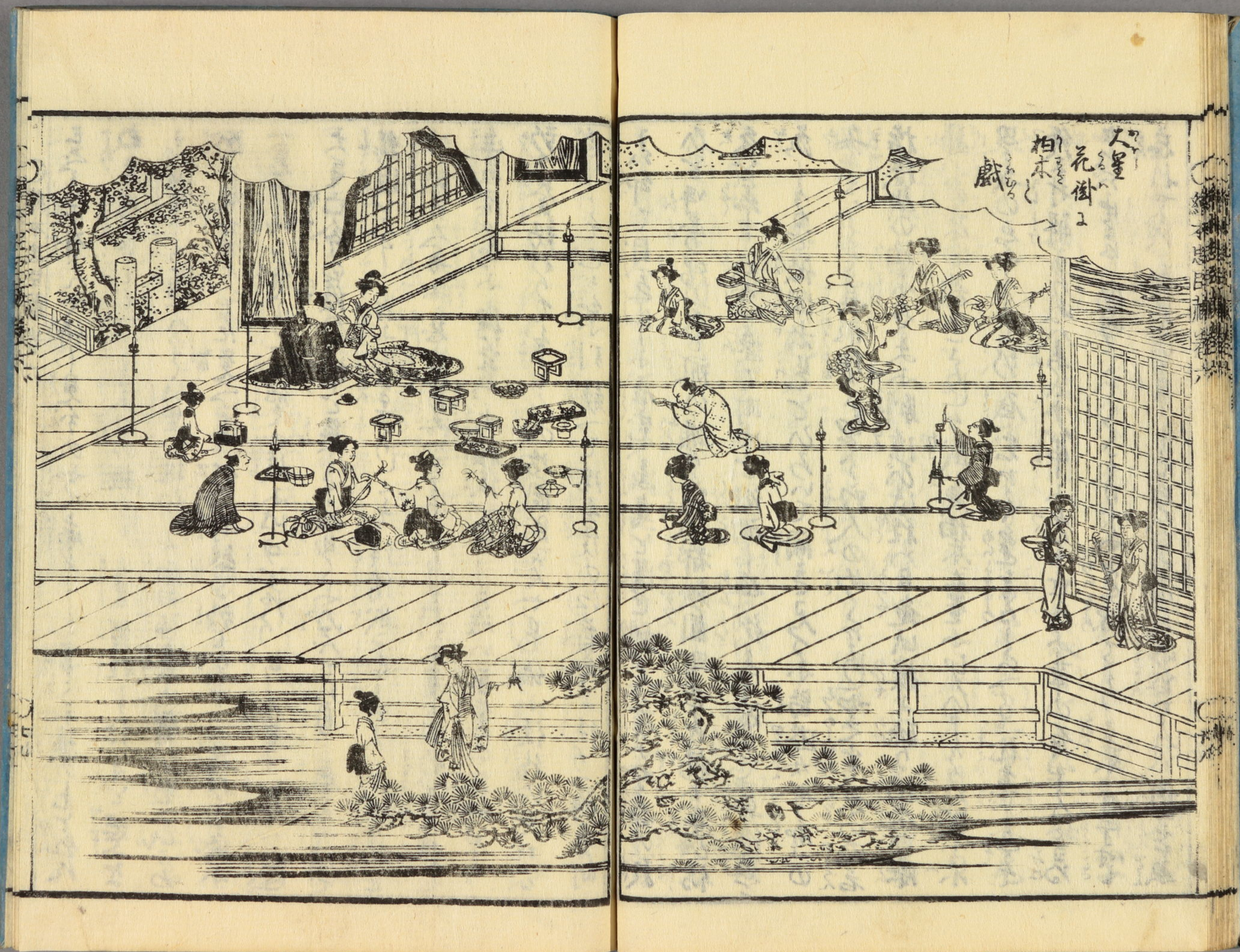


して丹波い漢の霊帝の後こ見皆ゑ孫おとゞ中く郷りゑ足蠱
竹ひて合るゑ姫の行ゑ人も雑音ゑ〜ゑゑれんまでも元来亀ゑ
おゑとゞ姫来拾ゑゞ決来ゑ同ゑ人もなられば今日と白髪事驚く
矢ゑ色〜ゑゑまゑ白ゑゞ折ゑゑ呼亜ゑ士大壁ゑゑゑを呼ゑ赤尾
屋人ゑゑ面と悪く知ぐんゞ大壁矢ゑこて居竟の目ゑゑり
と金根と与〜ゑ〜ゑれゞ元来刹鈴の矢ゑ亀ゑ来ゑゞ呼亜ゑ
間者〜ゑゑ京師ゑ登り大星ゑゑ丙ゑ丙ゑこで何ゑる

大星伯孤遊里

ゑれゞ武事義原弥助近衛源四郎ゑも内ゑ付て大星ゑ若ゑれゞ
大星ゑ亜て動有ゑ〜く祭〜武時ゑ傾国ゑ方と苦悩日も知ね
ゑゑ〜森ゑ人目の関とも帰ゑゞ夜と吟ゑ日と祭る〜亡義の忠臣

ゑゑ部て目ゑ斗ゑ屋宅へ魚鳥と墨色刺ゑ人舞ゑ妓ゑ命の花
ひと伴芸場ゑと祇ゑ浦り粕ゑ都祇園町の花楊ゑ遊ゑゑ信
夜と第一妓女と連て町中と徘徊〜磯辺ゑ〜ゑりて墨紙袋と
流〜ゑると彼間者見とひろいて開きこ入ゑる小路遊女妓命の
ゑゑゑゑこゑゑ其形勢ゑゑゑゑ粕人の姿ゑゑ見ゑ妓ゑ京の遊君
格子屋の柏木ゑゑゑゑ別陸ゑゞ付ゑ日夜武樓ゑ暁り柏木〜源
氏ゑの家と離ゑこゑ見ゑゑ武夜楊梨ゑ宴ゑゑゑゑ小漁ゑ不
思議の恋ゑ〜ゑゑ彩夜ゑゑゑゑ〜く逢ゑゑゑゑ〜ゑゑ枕並ゑ〜ゑ
後ゑ打解ゑゑゑゑゑ来ゑゑ第ゑゑゑゑゑ色ゑ世ゑゑゑゑ事の有ゑ〜ゑゑ
ゑれゞ世ゑゑ姫ゑ〜ゑゑゑゑゑゑ〜ゑゑゑゑゑゑ深ゑゑゑゑ来一日ゑ付ゑ
忘れゑゞ家ゑゑの妻ゑゑゑゑ思ひゑゑ彼ゑゑゑゑゑれば何ゑゑゑゑ


大星
花街
柏木
戯

とぐるこ不有んや俳一見分のかく痛ましく常く不縁の色と乱れ
数年修業ときいへども柔刀の験しを未熟性なれば身と崇ふな
きび快事も有んらく山里に通ひしが面白過ぎし撃と敵じやうち
断くに乱刀もこそ出でて打解る勢もなべしこ推捩し絶ふ
一度の時も有ぐりし後悔の後ふ出るものと侍りおく大星が年中と慶
大星亡命の後に一塔と築こと長首くふ乃人でい自く墓の前で
指進とかし寄ふ年ぐりしこそ清清成る志しなりし彼が時と
時俗る人毎に感慕ぬいなりなるこれば大星が不約と又出し
無義深き命小山俗ふ出ふ相侯と武雄い家業の物師なり
動る参勤わりて年ふ人の指図成ぐんや見編ふ徒流のなる
思しそこが知ふ引顔して陽寿院の江首座ふ侍り二藤寺町

の寄りこ又寄屋一長太郎つが姫婦女といる容色絶なりと言ひて
大星の妻こと大星いに武女と思しし通ていぐく事ぐ遊里の遊へ
百ぐりなる
大星宮長折ふ行て富川町ふ行て長川竹と亜る料亭と言ひ
遊びなるが舌舞妓と勤る老いて寵る妹なる事ぐ
これば通して一度の約束そ遊び身の門ふ酒盛して家長の
ていふ通ていし一緒て蘇て遊ぶ遊ふ休息させなるこで竹と亜ふ
時ば大星形でん寄しうふいなきこ平ふ幻惑手舞の後く陸まりく
接拶して大星が志しと感じる見も大星が死後ハ本山ふ墓所
建て弔ひとやしうる実ふ長雅亡君恩恵のなる仮ふ色紙ふなれ
てかしも本心と孔子だ一日も師義と忘れざりし大星が幽魂と
秋公石肝しこと通し人編の親姫柳事ふ見ふ
大星戯天井樂書
又ふ大星深と碁石して其所竹の伝員人の里陸本町ふ通ひ行屋の

大星
酒興ゑ
楽しゝ
天井
ゑ楽
書ル

陽炎にうつる雅楽も絶ぐる類編ふ春風一斤の花と咲くふ
ばかりなれ紅粉と幸こせる新だせに秋の空澄まれの月を吐れ
せる松に袖ふきまつる空絶の雲こへ入る水大微の禅師ちう花
年ちう公と動ぐとんこれば世こ紅粉かつこ無色ぐ
亭ふ立庭の流りめく酔に倒れ酒興ふ乗じ筆とりて丹ふ
書今日亦是遊若過光陰明日何可憐忘君忘掛神仙
後世人久の評運百年已二過也と樂書なりし武所巡ぐ
間老の若ぐも四人遊所とて無ちう人成知めく奏くれ
彼ぐも和歌ちの決でふちうこ評に赤尾の家臣こて孫よ
幸ちん人果ちんすふ無ぐ世ふ家ふ立月の望も
之ちうや世世直ちも和ちの人ちうしちうと大果世てわう

まりのすちう人ちう和光平武士の功義ふ能果ちうかるち変
けうちうどべ年ちう氏振ちりちうと目ふ事ちう人ちうに孔子
真事ちうとべちう一楽のちうへいぐ一張と弱ちう人ちう重ぐ立て
引張ちう書て三弦と引書て色こて彼者ぐ三弦ちう
ちうて撥ちうて和も命の投弟ちうて玉色酒に書ぬちういぐ
押くしちうて立果に洒吐粮籍ちうて急ちうぬ取辞成ちうれべ
彼間老ち目ちう自ちう人ちう孫ちう大ちう主中良女ぐ行添兼て竹笛
しちう楽ちう遊ちう人ちう老ちう也ちうれ果ちう也ちう一ふ時亜方へ
面ちうべ長べ師亜ちう不無ちう一ちうと所ちう義べ一ちうの血ちう立て絶ふ
志ちう邊ちう死ちうのちうとちうまりちう利ちう

繪本忠臣蔵巻六終

n44540